

新潮（小詩會詠草）：和歌：文苑

著者	杭子, 芒村, 卯の花, ゆふ闇
雑誌名	龍南會雜誌
巻	104
ページ	40-41
発行年	1904-02-20
その他の言語のタイトル	新潮（小詩会詠草）：和歌：文苑
URL	http://hdl.handle.net/2298/5658

野に立つ人よさらばいざ
罪のはだしを今さけて
陽炎もゆるみどり野に

讚美の歌を唱へずや
佐保姫神のみ姿の
あふまた雲にたごようを。

和歌

新 潮(小詩會詠草)

杭 子

新潮の遠きひびきに海底の春を夢みるいその貝がら
戸にせまる小雨そぞろにさむき朝春の音たてしわかき鶯
世を知らぬわかき鶯はちらひて梅をこひよるもやのあけぼの
わか草の春の流れの音すれにゆめのゆらぎや野べの陽炎
爐に近く梅をうつして京へやる文かく宵を雨まどをうつ

芒 村

人の世の夢ひねはてふ大空の星かけ清したくづきどころ
杜影のはこらをもるふ月かげにねむれる鳩の和毛にしげひねたり
草かれてかなしさみつる冬の原夕日しばしのはねとどめずや
雲ひくく空にまよひて野の末の伏屋の軒に夕日かがやく

東にそびゆる阿蘇の夕けぶり夢のみ國にかつうすれゆく

○ 卯の花

香に酔うて蝶の羽ぞらもひらくとかくてわが夢雲に入りぬる
 夕榮の黄金の雲をこぼゆきて不死のうまさけ得しと夢みし
 たゝならぬ雲のゆききや筑紫瀉君すむかたをわれ立のぞむ
 頬やせて濃き息白き其の中に迷ひの生命いのち狂ひの血しほ
 吹きすさぶ吹雪の中の枯木立鳥なき渡る夕ぐれの野べ

○ ゆふ闇

あや雲に歌のひじりを讃じ得て森にまた入る黙想のわれ
 いづくよりうれひを曳かむ天地にみなぎりわたる春の日のかげ
 われどわが胸のさゝやき興がりてひそかにひとり野をゆきかへる
 いざよひの月いまいでゝ野の草を没のかにわたるうつくしき影
 弱くともわれにしらべのなからすや胸なる浪をたれかうかどふ